

に注意して居ります。
 されば、私は、只今の處、まづ子供は、怪我をせず
 に丈夫に元氣で遊んでくれるならば、能事終れ
 りと思つて居ります。

園長として考へますことは、私が如何に以上の如
 き考で居ても、保母がその考になつてくれなければ
 仕方がない。また、保母が如何に善い意見を持
 つて居ても、園長がそれを飲み込まねば到底實行
 せらるゝものでないといふ事です。園長と、保母
 とが研究して、多數の意見のまとまつたものが、
 保育の方針として實行せらるゝと云ふ事にならね
 ばならぬと考へます。それで、保母は、つとめて
 園長を教育する、園長は、つとめて保母の意見を
 聞くといふ事にしたと思ふて居ります。

(文責記者)

腕白が先づ手のひらに筆始め(一茶)

關西の保育界を見る(承前)

和田 實

前々號に於て予は關西幼稚園參觀記を物して其第
 一日を終つて置いた。それで前號に於ては其第二
 日を掲げる心組で居つた所が公務殊の外に多忙な
 のと家庭に病人などがあつたので、心ならずも執
 筆しなかつた。併し、忙しいのと暇のないのとは
 歌に唱つて居た所で誰れも暇を呉れる人もないか
 ら本號には奮發して簡單に其第二日を叙して以て
 兎も角も此項の終つしようと思ふ。叙述が頗る乾
 燥で面白味のないのには讀者諸君も定めし物足ら
 ず御思召さるゝであらうが今回は是で御免蒙ると
 しませう。

楮て予が參觀第二日目の朝は數日來の疲勞で思は
 ぬ朝寢をして午前八時漸く寓所を飛び出した電車
 を驅つて梅田に行きそれより阪神電鐵に因て神戸
 にと向うた。目的は本邦幼稚園界の恩人エ、エル、

ハウ女史の經營せらるゝ頌榮幼稚園を參觀せんためである。蓋し同氏は本邦に於て幼稚園の爲めに盡さるゝこと既に二十餘年、其附屬の保姆傳習所を出でたる人は今や廣く全國に亘つて其一流の保育法を普及せしめて居る。我國に米國式、シカゴ式の保育法の能く普及して其他の流のものと互に對峙して我保育界を賑はしめて居るのは實に同氏の力與つて大なるものと云はねばならぬ。殊に大阪の保育界を見んとするものは其一般の保育法の大體相似かよつて居る中に超然としてハウ氏獨特の所謂、シカゴ式保育法を實施しつゝある此幼稚園を見ないと云ふことは阪神保育界に對する敬意を缺いたものと云はねばならぬ。余は余の僅かなる參觀日數の中より惜氣もなく丸半日の時間を是が爲めに割いたのは一に關西の保育會に對する參觀者の義務を果し、一つはハウ女史に敬意を表せんが爲めであつた。併し思はぬ朝寐に時間を空費して頌榮幼稚園の門内に足を入れしは同日午前十

時を打ちたる所であつた。直に入つて刺を通じて參觀を乞ひたるに折悪しくハウ女史旅行中にて保姆養生所主任某(尊名を逸す)氏應接せられた。折柄、幼児は自由遊びより室内一齊作業に移らんとする時であつた。室内の作業は翌十一月三日のお祝いの爲めに日の丸の旗を作ることであつた。で、早速先づ之を拜見することにした。其方法は先づ豫め用意したる白き地紙と赤の丸き打ち抜きと細竹と並に小許の糊とを與へられた。先生は先づ地紙を前に置かせ次に日の丸を其上に適當の位置に置かせて之を訂正し其正しきものより順次其位置を地紙の上に印し付けて遣り次に糊を以て之を地紙に貼り付け最後に細割竹を與へて之を完成せしめて居つた。次には遊戯即ち唱歌遊戯が始まつた。其唱歌が皆是悉く意味あるもので主として道徳的であつた。そして其調が如何にも唱ひ惡い、少くも日本の樂曲を喜ぶものには異様に感ずる様な抑揚があり旋律があつて歌詞が付き悪い様

な感じのするものであつた。云はゞ悲哀の訓の多い耶蘇風の、教會風のものであつた。是は何處の幼稚園でも西洋人の經營せらるゝ處では共通の特色である。遊戯は鳩、鯉、等二三のものゝと村の鍛冶屋及體操と行進とであつた。何れも全幼兒を方形に並べて置いて其中より數人の演者を出し他は多くは歌を唱ふか、若しくは見て居るのであつた。村の鍛冶屋と云ふのは歌を唱ひながら數名が鍛冶の眞似を爲し金物を注文せしめたる幼兒に之を與へると云ふ筋で、極めて穩かなものであつた。模擬體操は別段變つたこともなかつたが行進は割合に歩訓が取れなくて何時も樂器が拍子早になつて居つた。打ち見たる所其遊戯が凡べて獨特の創造で色々工夫されて居ることは誠に敬服す可き所である。そして遊戯や、手工の間に幼兒が保母の命を行はないうで勝手なことをしたり手徒をしたりするのを叱かる所は多少壓制ではあるが兎に角其叱り方が多くの幼稚園で見える様なお形式の叱責で

なくて保母の衷心よりして之を嫌ひ拒む所の表情が充分なので、頗る教育的であると云ふ感じを得た。概して外國人の小言の云ひ方は日本の小學教師に見る様な口數多き弊害と云ふものがなくて、頗る嚴格で眞面目であるから子供が能く之に服従する様に思はれる。此點は特に幼兒教育者の學ぶべき所であらうと思ふ。

遊戯が濟むと一同晝食に取り掛つた。此間余は主任の人より本年中に於ける保育の豫定題目を聞いた。左に記するものが即ち夫である。

- 一月 宗教と科學（世界創造のこと、日月昌晨）
- 二月 動植物、時、年、等）
- 三月 禮拜（服従、攝理、仁愛）
- 四月 復活（生命、植物、動物）
- 五月 國家（歴史、日本、獨逸、英國、米國）
- 六月 工藝（鑛山、鍛冶、舟、機關）
- 七月 同（石工、建築）

八月 休み

九月 農夫の働き (六月に植えたる稻の觀察、

稲作、天氣表)

十月 農夫の助手 (家畜、農具)

十一月 收穫 (米、菓物、落葉、野菜と感謝祭)

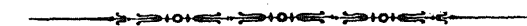
十二月 冬眠 (クリストの話、古來の話)

斯る豫定の下に凡べての保育を統合して一方に直観的に模倣的に是等の事物を知らしむると共に之をして幼兒の腦中に於て統合する所あらしめ悟る所あらしめんとするものは即ち米國シカゴ派の所謂新式保育法である。豫定の整然として立派なる恐くは見る人をして喫驚せしむるであらう。併しながら統合主義が教育學上如何程の價値を有す可きかは既に定評のあることで今茲に之を事新らしく論ずる迄もない。従つて是が幼兒への課程法としては餘りに高尚に失するの嫌あることは云ふ迄もないことである。勿論、高尚なることを卑近に話すが保姆の技量には相違ないが、併し、之を

幼兒に適切なる迄に卑近にして仕舞つては到底斯る高尚な整頓したる思想を吹き込む譯には行かぬことゝなつて矢張り實際は平凡なことをするに過ぎぬことゝなつて仕舞ふ。由來、幼兒の頭腦中に整頓したる大思想を作らうとすることが抑も幼兒教育の目的以外に逸したことで小學校以上の教授目的を幼兒教育に横取して來たものと云はねばならぬ。幼兒の直観は何處迄も直観でよいのである。之を直観以上に大悟する所あらしめんとするなどは余をして云はしむれば實に一個の空想に過ぎぬ。吾人は頌榮幼稚園が我國幼稚園界に貢獻せられたる功績を感謝するとは云へ其保育法の統合主義には賛成する譯には行かぬ。米國の如き教育學の不完全なる所に於ては斯る統合主義も或は識者の研究題とならんも計りがたけれど我國の如き十數年の昔に於て既に此問題に遭遇したるものは今事新らしく此主義の研究に力を盡すの必要もなからん。勿論、保姆の便宜の爲めに、又は保育者の

面白半分おもしろはんぶんに時に斯かる豫定よていを作製さくせいすることは敢あえて悪あししとも云いへぬ。併しかしながら之これを以もつて爲しなければならぬものと考かんがふるは如何いかなものであらうか。斯かく云いふと或あるひは吾人ごじんを以もつて保育ほいくに統合とうがふなしとするものと誤認ごにんせらるゝ方かたがあるかも知れぬ。併しかし、是これは誤りである。吾人ごじんは固もとより絶體的ぜつたいてきに非統合主義ひとうがふしぎを主張しゅちやうするものではない。唯斯ただる一時いちじの無理むりなる統合とうがふを排はいするものである。米國流べいこくりやうの統合とうがふは一時いちじに是非ぜひとも統合とうがふして任舞しんまはんとする所に無理むりがある。従したがつて容易たやすくは直觀ちやくくわんし能あたはざること迄までも一時いちじに知らしめんとして苦心くしんして居をる。之これが此主義このしぎの誤あやまれる主なる點てんである。人の思想しやうの充分じゆうぶんなる統合とうがふ的整理てきせいりを得えるは青年期せいねんきであつて決して幼年期えうねんきではない。統合主義とうがふしぎが若わかし行ふ可べくば青年期せいねんきの教育けういくに行ふ可べくして決して幼年期えうねんきに強しむ可べくではない。是これが吾人ごじんの此主義このしぎに賛成さんせい出來きぬ所以ゆゑである。イヤ、參觀さんかんに來きて居をながら餘計よけいな議論ぎろんをした。議論ぎろんはしても決して我國わがくにに於おけるハウ女史ごよしの功績こうせきを

忘れわすれはしない。女史ごよし希ねがは吾人ごじんの非禮ひれいなる咎とがめず。益々ますます斯道しきだうの爲ために盡つくされんことを。併しかして之これで頌榮しょうえい幼稚園えうぢゆうえんの大體だいたいを拜見はいけんすることが出來たが、序ついでにとて保姆傳習所ほむでんじゆしよの教科書けくしよを御尋おたづねしたらばフレーベル先生せんせいの「人の教育けいいく」及および福來博士ふくらいはかせの「心理學精義しんりやうけいぎ」が主なる教科書けくしよで他は口授こうじゆであるが別段べつだん教育學けういくがくは授まけて居をらぬさうであつた。時は遠慮えんりよなく過ぎて午後ごごは一後いちごに近づちかきさうである。因よつて主任しゆじんの方に應接おうげつ説明せつめいの勞らうを感謝かんしゃして此處こゝをば出いで、直すぐ近邊きんぺんなる市立神戶幼稚園しちりつごんごえんを訪問ほうもんした。新築後間しんちくごまもなき立派りつぱな幼稚園えうぢゆうえんで遊園ゆえんは然さして廣ひろしとはあらねど室内しやうないの稍廣やひろく々々としたる。天然てんぜんの崖がけを利用して花壇くわだんとしたる。湧わき出いづる泉いづみを池いけに溜ためめたる中々なかなかに見所けんじよあり。急いそぎたれば暫時せんじにして此處こゝをば出いで園長望月氏えんちやうもちつきの案内あんないにて先頭さきごうの戰役せんえきに紀念きねんとして創設さうせつせられたる托兒所たくじしよを拜見はいけんした。折柄せりな大きな子こはオルガンの音ねに連つれて半なかば遊戯ゆぎし半なかは見物けんぶつして居をた。別宗べつしゆに至いたれば當才たうさいの嬰えい



兒は孤々として搖籃の中に泣いて居るのがあつた。看護の人の深切に之を世話する様は實に々々世の美觀である。余は我知らず衷心より多大の敬意を以て恭しく一輯するを禁ずることが出来なかつた。頓がて茲をば辭して、次には兵庫幼稚園を唯園舎丈拜見した。是より轉じて原田村なる松壽幼稚園の園舎丈も拜見したいと思つた所が時既に四時を過ぎて居る。然るに夕刻六時には豫て大阪府女子師範學校長大村芳樹氏と約あり同校に於て一場の講演をしなければならぬ。因つて止むを得ず。又の時を期して之を略し直に汽車にて桃山に向つた。學校に着いたのは約束の時を過ること半分で茲に暫く乾燥な理屈談をこね廻はし大村校長よりは意外なる歡待と御饗應とを受けて宿所に戻つたのは正に午後九時であつた。

翌第三日は天長節で學校の子供のこゝくと往來する中を余は車を驅つて先づ江戸堀幼稚園に行つた。主任膳たけ氏の自然物利用を以て成功し居ら

る、様を拜見し利用せる廢物を分け乞ひなどして急ぎ次の豫定園なる日吉幼稚園に向ふ。是より下福島、管南の二園を経て最後に北大兄幼稚園を訪問し、宿直の先生を煩はして其有名なる遊戯室の壁畫を拜見した。聞きしに優る大きなものにて深山の幽邃なる邊より谷川の激奔する景、さては長汀曲浦の美しき眺め大洋上の壯絶なる怒濤の様など流石に我園にもと羨しき感じした。

茲を辭して出づれば時既に午後三時急ぎ宿に歸りて行李を修め夕刻發の列車にて東歸の客となつた。

以上三日間の參觀、名は參觀なれども實は何處も唯通り過ぎるに園舎をのぞきしに過ぎず。而も至る所に妄評を逞して今尙背に汗を覺ゆ、記述する所或は誤なきを保せず。乞ふ諒せられんことを。